令和５年度和庄中学校区研究推進計画

校番（10）和庄中学校
校長名　　小林　浩樹

1　学校教育目標
夢を持ち　自ら学ぶ

2　目指す児童生徒像
自ら考え判断し，自主的・主体的な行動ができる児童生徒

3　育成を目指す資質・能力（具体の姿）　　※**太字**については重点項目とする。

設定した資質・能力	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
	知識・技能	**思考力**・判断力・表現力	**主体性**・積極性
後期	知識及び技能を確実に習得し，新たな知識や技能を既得の知識及び技能と関連付けながら他の学習や生活の場面で活用することにより深く理解することができる。	習得した知識や技能を活用したり，相互に関連付けたりしながら，問題発見・解決につなげたり，考えを表現したり，伝え合ったり，理解したり，形成したりしている。	自ら課題を進んで見いだし，その解決に向けて，見通しをもって粘り強く取り組み，探究的に課題解決への挑戦をしようとしている。
中期	基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し，新しい知識や技能を既得の知識及び技能と関連付けながら他の学習や生活の場面で活用することができる。	習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用して，問題発見・解決につなげたり，考えを表現したり，伝え合ったり，理解したり，形成したりしている。	自ら課題を進んで見いだし，その解決に向けて，見通しをもって粘り強く取り組もうとしている。
前期	基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し，他の学習や生活の場面で活用することができる。	習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用して，問題発見・解決につなげたり，考えを表現したり，伝え合ったり，理解したりしている。	自ら課題を進んで見いだし，その解決に向けて，粘り強く取り組もうとしている。

4　研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学び，思考を働かせ表現する児童生徒の育成

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本中学校区は，呉市の中心部に位置し，繁華街を含む商業地域と古くからの住宅街が混在しており，児童生徒を取り巻く状況は多様化している。保護者や地域の学校への関心は高く，PTAや地域の交通安全推進活動等，教育活動に対する理解や支援がある一方，支援を要する家庭が多く，家庭環境及び教育力に大きな格差が生じている。

本中学校区の児童生徒として，学んだことを発展させ，さらに次の課題を見付けて主体的に学びを深めようとするところに課題がみられる。また，学力調査等の結果・分析から，目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように文章にまとめたり説明したりすることに対して課題があることがわかった。また，自分には，よいところがあると思っている。

そこで，本中学校区では，“育成を目指す資質・能力”として「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・積極性」の３つを設定した。今年度は，思考力，主体性の育成に重点をおいた取組を推進し，研究主題である“主体的に学び，思考を働かせ表現する児童生徒の育成”の具現化を図ることにした。そこで，各教科並びに総合的な学習の時間において，教科等の本質に迫る「考える授業」づくりに取り組んでいく。

授業では，引き続き，小中が共通して「和庄中学校区授業モデル」を活用した授業実践を積み重ねていくことで，主体的に学習に向かう学習集団の育成とともに，９年間を通して教職員の共通理解のもと，学力向上を目指した土台作りを図っていく。

具体的には，授業の導入部分で，前時までの学習を基に授業への見通しをもたせ，児童生徒の問いを生かした具体的で必然性のある「考えたくなる課題設定」を行う。

授業の展開部分の学び合いの場では，教師が一方的に説明したり，一部の児童生徒の意見により授業が進んだりする傾向がみられる。児童生徒１人１人が，自分の考えを持ち，伝えることができるよう，考える場の意図的設定をするとともに発問の工夫やシンキングツール（思考ツール）の活用等，思考を存分に働かせるための手立ての充実を図る。

終末では，視点を与えた「今日のなるほど・明日のために」で，深い学びを自覚させ，次時の課題につながるようにしていく。

また，昨年度と同様にカリキュラムマップに９年間を見通した防災教育を位置付け，自分事として捉え，家庭を巻き込む取組の充実を図る。各校において「本質的な問い」を設定し，生涯にわたって災害に備え，他者と助け合う精神を育んでいく。

以上のことを通して，目指す児童生徒像「自ら考え判断し，自主的・主体的な行動ができる児童生徒」の育成を目指していく。

(3) 研究仮説

「和庄中学校区授業モデル」を土台とした教科等の本質に迫る「考える授業」づくり，「和庄中スピリット」を徹底する取組を推進させれば，児童生徒が主体的に学び，思考を働かせ表現する力が育まれるであろう。

5　研究内容

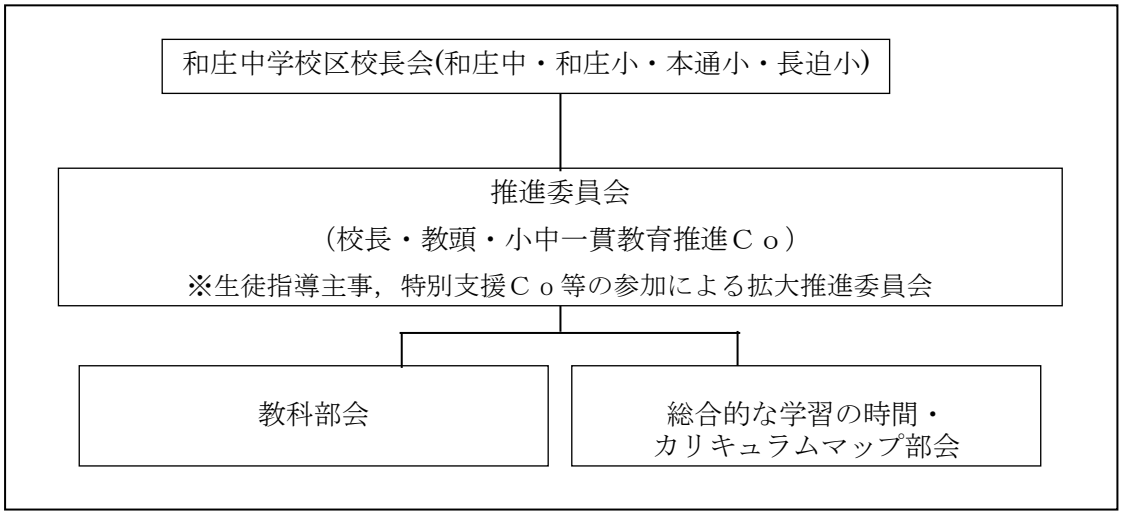
- 和庄中学校区における小中一貫教育の在り方
- 研究テーマ，めざす児童生徒育成のための授業づくり
- 研究の成果と課題分析，発信，広報活動

6　検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 児童生徒が思考を働かせ表現する授業を創造することができたか。	授業評価票	研究授業における教職員の相互評価値の平均（４段階評価）	２．９	２．９以上
	教師アンケート	教職員の肯定的評価	－	
② 資質・能力を育成することができたか。	振り返りシート（児童生徒）	児童の肯定的評価	３．８	３．８以上
	振り返りシート（教師）	教職員の肯定的評価		
③ 児童生徒の学力が向上したか。	全国学力・学習状況調査（国語，算数・数学，英語）	全国平均との差	国語 （中）－2.0 （小）＋8.5 算数，数学 （中）＋0.6 （小）＋5.9	全国平均との差 中学校　＋１ 小学校　＋６
		指導方法等改善計画「検証問題」	国語 （中）61％ （小）87％ 算数，数学 （中）57％ （小）93％	目標値を上回る

7　推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等（中→小，小→中）

（中→小）

・外国語科５・６年生　各校週２時間ずつ実施
・体育科５・６年生　　各校週２時間ずつ実施
・算数科６年生　　各校３学期に１回実施
・音楽科５年生　　各校３学期に１回実施

（小→中）

・中学校補習授業　　夏季休業中に実施

イ 小学校教科担任制等

・和庄小（理科・家庭科・外国語・書写）
・本通小（音楽・図画工作・家庭科・書写）
・長迫小（理科・音楽・図画工作・家庭科・書写）

8　推進計画

月　日	内容			
	和庄中	和庄小	本通小	長迫小
４月１２日	和庄中学校区小中一貫教育推進委員会【和庄中】(今年度の方向性の確認)			
６月２０日	第１回和庄中学校区小中一貫教育全体会・部会【和庄中】　授業研究 講師　広島文教大学教育学部　教授　今崎　浩　先生			
夏季休業中	中学校補習授業			
１０月　日	第２回和庄中学校区小中一貫教育全体会【長迫小】　授業研究 ※「学びの変革」推進協議会を兼ねる			
２月１６日	第３回和庄中学校区小中一貫教育全体会・部会【和庄中】　授業研究 講師　広島文教大学教育学部　教授　今崎　浩　先生			
２月２８日	和庄中学校区小中一貫教育推進委員会【和庄中】(今年度の成果と課題，次年度に向けて)			

9　その他

(1)　小中合同行事について

・母校でのあいさつボランティア活動（6月，11月の年2回）
・呉市小学校陸上記録会合同練習会【和庄中】（10月24日，25日）
・オープンスクール【和庄中】〈学校案内，授業・部活動体験〉（10月頃）
・和庄中学校新入生小中連携会【和庄中】（3月末頃）
・メディアコントロール（年間３回）

(2)　小中一貫だよりについて

・和庄中学校区通信（年間４号の発行）
・各校の防災教育の取組を通信にて紹介する。